

## 遠野地方における素材生産システム改善の取組～路網設計技術研修の開催～

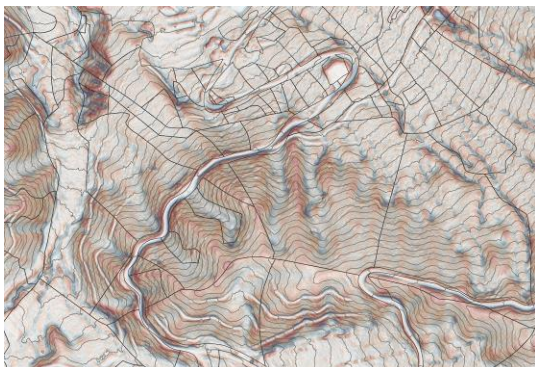
### 1 はじめに

遠野地域では、搬出間伐や一貫作業による造林など高性能林業機械を用いた森林整備に力を入れています。当センターでは、高性能林業機械の性能を最大限発揮させるための森林作業道の路網設計技術の向上が必要と考え、遠野地方森林組合と課題解決に向けた協議を重ね、実際に作設に携わる技術者を対象とした研修会を開催しましたので、その内容を紹介します。

### 2 研修会の概要

令和5年10月31日に岩手大学農学部准教授 齋藤仁志氏を講師に招き、遠野市内の林業事業者等24名が参加し、森林作業道の路網設計研修会を行いました。

室内研修では、森林内のどこに作設すればいいかを作業道の崩壊事例も交えて地形把握の重要性の講義のほか、遠野市の航空レーザ測量



CS 立体図

【参考】 CS 立体図とは、標高、傾斜、曲率の3つの情報に色付け重ね透過処理し立体表現した図法

データを基に、現地検討を行う箇所の傾斜区分図とCS立体図を事前に作成し、図面上で危険箇所の判読を行いました。

また、間伐実施予定の森林内で現地検討を行い、地形図で湧水ありと判読された箇所を実際に確認し、路線形を決定する際は避けるべき箇所であることが分かりました。



現地検討の様子

事前に図面で地形を把握し、現地踏査により危険箇所を洗い出した情報をスマホ等で作業員同士が共有し、路線形を決定していく手法等の説明もあり、参加者が各自の現場に活用できるか話している様子も伺えました。

### 3 今後の取組

今回の研修では、森林作業道の路線決定をする上での基本を確認することができました。

今後は、素材生産コスト低減に向けた作業システムの改善について、技術的な面から支援をしていきます。